



江田島探検隊！

尾道市立御調西小学校 対象学年（第5学年）

体験活動の種類 **社会奉仕** **自然**

体験活動場所・宿泊場所 江田島市・国立江田島青少年交流の家

【学校紹介】

○本校は、平成16年4月、明治3年創設の由義舎（河内小学校）、明治7年創設の開明舎（今津野小学校）以来長い歴史をもつ二校が統合して開校した新しい学校である。旧河内小学校校舎をリニューアルして校名を御調町立御調西小学校として出発した。それぞれの学校は、地域と密着し特色ある教育活動を推し進めてきたが、近年の児童数減少のため統合して、より高い教育効果を目指すという計画のもとに本校は生まれた。その後、平成17年3月尾道市合併により尾道市立御調西小学校と改称した。本校は、御調町の西部に位置し、国道486号線が東西に走り、御調川が田園地帯を東に流れ、自然に恵まれた景観の中にある。学校の前の川辺には東西3.4キロメートルに及ぶ遊歩道が整備され環境も整っている。統合により校区面積は2倍以上になり、遠距離通学の児童はスクールバスで通学している。



- 校長名：吉原 順子
- 児童数（学級数）：118名（7学級）
- 所在地：広島県尾道市御調町丸門田21番地
- 電話番号：0848-76-0073
- URL：<http://www.onomichi.ed.jp/mitsuginishi-e/>

【体験活動のねらい】

- 自然体験を通して、人とかかわりを深め、お互いの良さを認め合い人間関係の基礎づくりをする。
- 集団での生活の場で必要なことを学ぶ。
- 進んで仕事を行うことの大切さを学ぶ。

【指導計画】

実施時期	活動内容	実施時間数	教育課程上の位置づけ	実施場所	指導者
事前学習 5月～6月	オリエンテーション	1	総合的な学習の時間	5年教室	5年担任 専科教員 交流の家指導員
	活動施設の方の説明	1	総合的な学習の時間	5年教室	
	調べ学習	6	総合的な学習の時間	5年教室	
	火おこし体験	1	総合的な学習の時間	ピロティ	
	目標、班及び係設定等	3	学級活動	5年教室	
	「決まりの大切さ」にかかわる指導	1	道徳	5年教室	
活動中 6月27日 ～30日	さとうみ科学館見学	2	学級活動・理科	さとうみ科学館	5年担任 専科教員 特支担任 養護教諭 管理職 交流の家指導員 さとうみ科学館職員
	入所式・オリエンテーション	2	学校行事	江田島青少年交流の家	
	オリエンテーリング	3	学級活動	江田島青少年交流の家	
	学習のまとめ活動①	1	国語科	江田島青少年交流の家	
	炊さん活動	2	家庭科	江田島青少年交流の家	
	海の生物観察	2	理科	交流の家付近の海辺	
	学習のまとめ活動②	1	国語科	江田島青少年交流の家	
	カッター活動	1	体育科	交流の家付近の海辺	
	学習のまとめ活動③	1	国語科	江田島青少年交流の家	
	家族への手紙作成	1	国語科	江田島青少年交流の家	
	奉仕清掃活動	3	学校行事	江田島青少年交流の家	
	退所式・解散式	1	学校行事	江田島青少年交流の家	
事後学習	まとめ新聞づくり	3	総合的な学習の時間	5年教室	5年担任

7月～ 11月	お礼の手紙作成	1	国語科	5年教室	専科教員
	作文	2	国語科	5年教室	
	シナリオ作成	2	総合的な学習の時間	5年教室	
	「親切・思いやり」にかかわる指導	1	道徳	5年教室	
	発表会練習	10	総合的な学習の時間	体育館	
	発表会	1	総合的な学習の時間	体育館	

【体験活動の概要】

○奉仕体験活動＜施設内の清掃活動＞

当初は、3日目に活動を行った海辺の清掃活動を計画していたが、雨天のため、お世話になった施設を清掃することになった。

指導に当たっては、役割分担を明確にして、自分の担当の場所を時間いっぱいやり切らせるようにした。また、集めたゴミ等は一つにまとめ、成果を確認できるようにして、達成感を高めた。



○交流活動＜江田島市在住のさとうみ科学館の方々との交流＞

1日目、3日目に、さとうみ科学館の所員の方々から、江田島市の海の水生生物にかかわる指導を行っていただいた。

指導に当たっては、山間部にある御調町では見られないものをしっかり観察する点、海の近くに住まれている所員の方々としっかりかかわり、触れることができる水生生物は積極的に触って体感する点を特に意識して児童に声をかけていった。



○カッター活動

本宿泊体験活動における重点体験活動として、3日目に、カッター活動を行った。

指導に当たっては、「全力」「協力」をキーワードにして、全員が活動に取り組むことができるよう、事前指導を行った。活動中は、指導員から教わった「素早く」「正確に」を意識して漕ぐ練習を行い、最終的にスムーズにカッターが進むようになった。児童は達成感いっぱいの様子であった。



【体験活動の効果を高める事後学習】

○道徳の時間での取組

11月下旬に「思いやり・親切 2ー(2)」を主題とした道徳授業を実施した(資料「くずれ落ちたダンボール箱」)。授業の終末部分で、宿泊体験活動を振り返る場面を設定したことで、体験活動で気付いた友だちの優しさや思いやりを再度自覚し、内面化していくことができた。



○学習発表会での取組

宿泊体験活動での学びの成果を保護者や地域、他学年児童に伝えていくために、学習発表会で「江田島探検隊!!」という創作劇を披露した。

自分たちで劇のシナリオを考えていく過程で、再度、江田島での体験活動を振り返ることができ、そこで学んだことを再確認することができた。他学年や保護者・地域の方々からも「どんなことを学んできたかわかった。」等の感想をいただき、好評であった。



<児童の感想文から>

今日は、ついに発表会でした。

朝から、とてもきん張して、ドキドキしていました。「失敗したらどうしよう。」とってしまうこともありましたが、「いや、絶対に成功する!」と、自分に言い聞かせて気を落ち着かせました。

そして、自分たちの順番がきました。体育館への移動中、とても緊張してきました。

ついに、始まりました。ニュースの場面が終わって、とうとう僕の出番です。

以前、日記に書いたように、僕には目標がありました。一つは「大きな声でセリフを言うこと」、もう一つは「恥ずかしながら動作をすること」です。

大きな声で言うことはいつも通りちゃんとできました。そして、動作もちゃんとできたと思います。予行演習では課題になった「江田島ダンス」も、動作を大きくすることができました。劇の最後の言葉もちゃんと言うことができました。

6年生の劇の照明の仕事もバッチリ成功させることができました。そこで一安心・・・ではありません。全校のオペレッタがあります。だけど、全校のオペレッタの歌もきれいに歌うことができました。

江田島で学んだことをもとに、来年は僕たちが学校のリーダーとして全校を引っ張っていきたいです。そして、来年も、絶対成功!

【交流先や施設等との連携】

○関係機関等との連携の連携にかかわって以下の内容で連携を行い、宿泊体験活動の円滑な運営をはかった。

時期	連携相手	連携内容	連携のポイント
事前	江田島青少年交流の家指導員	施設の説明・活動プログラムの説明・事前指導について等	・相互理解 ・目的の共有化 ・安全管理
	さとうみ科学館所員	活動の予約について・活動の内容について等	・相互理解 ・目的の共有化 ・安全管理
	バス会社	バス料金について	・経費の削減
活動中	江田島青少年交流の家指導員	児童の状況把握・施設及び天候の状況把握・活動内容の確認等	・目的の共有化 ・安全管理
	さとうみ科学館所員・館長	児童の状況把握・活動内容の確認等	・目的の共有化 ・安全管理
事後	江田島青少年交流の家指導員	成果発表会の招待について・帰校後の児童の様子について等	・相互理解 ・謝辞
	さとうみ科学館所員・館長	お礼文の送付について・次年度に向けての確認等	・相互理解 ・謝辞

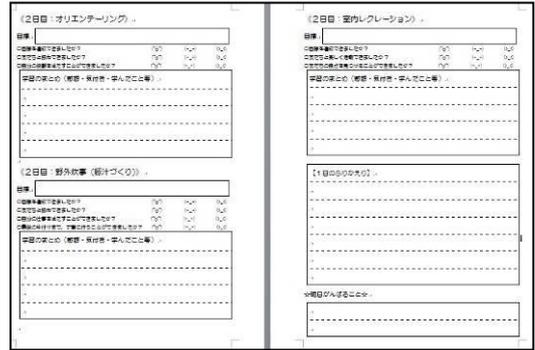
【評価の工夫】

○しおりの工夫

学習のしおりに毎日の記録を記入させた。できるだけ活動直後にしおりへの記入の時間を確保し、記憶が新しい間に自己評価できるようにした。また、短時間で振り返りができるように、振り返りの視点を示した。

○作文・新聞づくり

体験活動後、成果発表会後に作文を書かせることにより、自分の学びを再確認させ、学んだことの定着化を図った。また、事前の調べ学習、事後の学びのまとめとして新聞づくりを行った。



<児童の感想文から>

私たちは、この江田島で、たくさんの事を学びました。江田島は、一生わすれたくない思い出です。

私が、一番心に残ったのは、2日目のオリエンテーリングです。理由は三つあります。

一つ目の理由は、班で協力して出来たからです。ふだんから、いうことを聞かない人がいたり、ついてこない人などがいたりして大丈夫かなあと思っていたけど、本番では、〇〇くんは、地図を見ながら、「こっちをこう行ったら、ポストに行けないから、こっちだ。」

などと、教えてくれたり、△△くんや□□くんは、登れそうにない所で、手をかしてくれたりしてくれました。

二つ目の理由は、とても大きな達成感が味わえたからです。班で協力して、すべり落ちそうな山道を歩き、永遠に続きそうな急な坂道を登ったりして、すべてのポイントにたどりつくことができました。これは、班で協力したからこそ、出来たことだと思います。

三つ目の理由は、何より、安全で、5年生のみんながゴールできたからです。もしも、班が協力しないで、バラバラに行動していたり、人の事も考えないで、自分のペースで歩いている人がいたりしたら、みんなが、安全に帰ってこれなかったかもしれません。改めて、この5年生は、協力しているのだなあと感じました。

私が、この江田島での体験活動で学んだことは三つあります。

一つ目は、協力することの大切さです。協力してやったプログラムは、オリエンテーリングだけではなくありません。野外炊事やカッター活動も同じです。私は協力するという事は、人とかかわりあいを深める役割もしていると思います。どうしてかという、協力して何かのきっかけを作らないと、仲良くなれないと思うからです。

二つ目は、真けんにすることの大切さです。その事を主に教えてくれたのは、カッター活動です。カッターは、真けんにしないと、最悪の場合、死んでしまうからです。私は真けんにするのはとても難しいことだと思います。なぜかという、普段から、真けんは何事もやっておかないと、急に、

「真けんにしる。」

と言われても無理だと思うからです。

三つ目は、全力ですることの大切さです。

私は、どのプログラムも、全力ですることができました。全力ですること、ということは、今やっていることだけを考えて、ということだと思います。

私たち5年生は、この宿泊学習で、たくさんの人にお世話になりました。交流の家の●●さんや、指導員さんなど、もっと多くの人に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

○事前に実施したアンケート調査結果から

事前のアンケート調査では、児童は肯定的評価を高くしているが、実態とは、ずれがあるものがあった(「規範意識」「感謝・思いやり」等)。そこで、それらの点を意識し、自分たちの実態を実感できるよう、活動内容や活動の進め方について精選を図った。

【安全面の配慮事項】

○安全面にかかわり、以下の点を配慮した。

留意した視点	取組の具体
児童の体調面	事前の健康調査の実施
	お茶等水分の確保
	食事メニューのチェック (アレルギー対策)
管理・運営面	保護者への事前説明・連携

	引率職員の確保（児童 24 名に対して常に 4 名の職員を配置）
	無理のないゆとりのあるスケジュールの作成
	引率者同士の情報共有
	事前の施設見学（危険場所のチェック）
児童に対する指導面	交流の家職員による事前説明会の実施
	集合時の点呼等の徹底・危険場所の周知
	公共の場での過ごし方の指導

【体験活動の成果と課題】

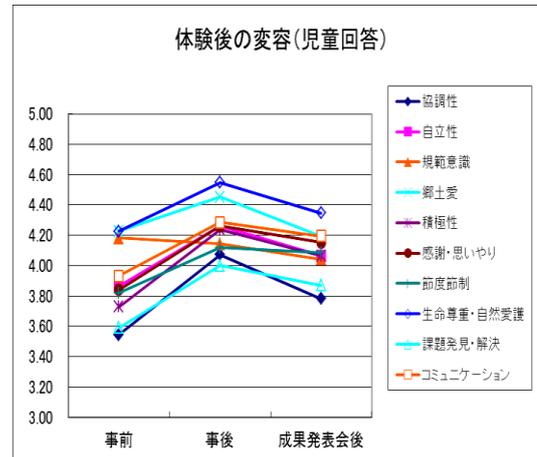
○活動の成果

ほとんどの項目で事前よりも事後の児童の意識が向上している（事前平均 3.90→事後平均 4.24）。

特に、「協調性」にかかわっては、0.5 ポイント以上向上している。これは、自分中心の思考が多く見られた児童が、長期宿泊体験活動を行うことで、他者との共生の必要性に気付くことができた成果であると考えられる。

さらに、成果発表会後の感想文からは、宿泊体験活動での学びを最高学年となる来年度につなげていこうとする姿が見られた。

また、保護者からもおおむね肯定的な評価を得た。準備段階から協力していただいた保護者の方々に対して唯一お返しすることができる「体験活動を通じた子どもの成長」を確保することができた。



<保護者の主な感想>

- ・体験活動後、家でも協力してお互い助け合う、自分の身の回りをきちんとすることが少し出来てきた様に思います。
- ・特別成長したとは感じられませんが、帰ってきていろいろ話を聞くと頑張ったのだなとは思っています。
- ・進んでお手伝いができるようになった。
- ・以前より「ありがとう」と素直に言えるようになったと思います。集団生活が大好きで楽しかったようです。
- ・家族やペットに対して前よりも優しく接してくれるようになった気がします。達成感が自信になっていくように思います。
- ・自分のことは言われなくても出来るようになりました。お手伝いを今まで以上にしてくれています。
- ・家でお手伝いをしてくれるようになった。
- ・まだ、ここというポイントはないが、何だかたくましくなったと思います。
- ・体験活動を通して、みんなで協力しあう事など、考え方(友だちに対する)が成長したと思います。
- ・頼ってばかりいたが、少しずつ自分でしようとする姿が見られるようになった。
- ・辛いカッター訓練も乗り越えいろいろな事を見て感じて楽しんで友だちとの絆も深めて帰ってきた。
- ・みんなと協力する大切さを学んだようです。
- ・集団生活の体験をし、友だちと協力することの大切さを学んだ。
- ・やりたくないこと(しごと・お手伝い)も、少し我慢してやる姿が見られるようになった。

○今後の改善点

体験活動後と成果発表会后では、児童アンケートの数値が低下した。体験での学びをできる限り持続できるよう、今年度以上に、体験活動を振り返る場面を設定し、学びの持続を図っていく。

【次年度に向けて】

○学びの多かった長期宿泊体験活動を次年度以降も継続して実施していくために、以下の内容を実施した。

- ・第 4 学年（来年度第 5 学年）の保護者に対して、来年度も長期宿泊体験活動を実施することを保護者懇談会で説明した（第 4 学年担任・管理職出席）。
- ・来年度の実施に向けて保護者の金銭的負担感を軽減するために、11 月から活動諸費用の積み立てを開始した（毎月 1,000 円）。
- ・江田島青少年交流の家の予約を行った（平成 25 年 6 月 25 日～28 日実施予定）。